

## 草津市中心市街地活性化市民フォーラム2 要旨

日時:平成24年8月29日(水) 19時～21時

場所:草津商工会議所コミュニティホール

### 開会

#### 1. 開会挨拶

田中政策監による開会の挨拶。

#### 2. 報告者の紹介

司会(草津商工会議所事務局)より高田アドバイザー、草津市まちなか再生課奥村課長、高谷専門員、草津商工会議所伊勢村副会頭の紹介がある。

#### 3. プログラムの流れ説明

これより、高田アドバイザーによる進行となり、高田アドバイザーよりフォーラムの流れ説明及び意見用紙への記入・提出の依頼があった。

#### 4. 報告事項

##### (1)草津市中心市街地活性化基本計画策定に向けた取組みの中間報告

草津市まちなか再生課奥村課長より、資料3に沿って、「中心市街地活性化法によるエリア」「中心市街地活性化事業の取組みの方向性」「活性化の事業展開イメージ」についての中間報告が行なわれた。

##### (2)基本計画検討プロジェクト会議の中間報告

草津商工会議所伊勢村副会頭より、資料4に沿って、「第1回、第2回プロジェクト会議の経過」「基本計画プロジェクト会議(1～2回)による民間事業計画案」についての中間報告が行なわれた。

##### (3)個別事業者の相談状況の中間報告

草津市まちなか再生課高谷専門員より、資料5に沿って、「個別ヒアリングの状況」「相談ケースの紹介」「個別ヒアリング結果の分析」「中心市街地活性化協議会」についての中間報告が行われた。

#### 5. 休憩、意見用紙回収

#### 6. 意見交換

高田アドバイザーが会場より提出された意見用紙を紹介しながら、意見交換、フリートーキングを行なった。主な意見交換は以下の通り。

参加者 :もっと商業者や地元の声を聞いた計画づくりや、商店街の状況を把握するなどしてほしい。また、会議所の中活への取組み姿勢はどうか。

伊勢村副会頭 :現在会議所では6名体制で中活にあたっている。特にまちづくり会社設立は会議所が重要な役割を持つことから、設立準備会も発足して協議しており、常議員会などでもそ

の都度説明している。まちづくり会社が設立されなければ中心市街地活性化は始まらないことから、設立から運営まで、市の支援もお願いしているところである。皆様には会社設立に向けての詰めが整い次第、ご報告の場を持たせていただく。

高田アドバイザー : 「再開発の中での子育て支援機能などを考えている」とのご意見がある。

田中政策監 : 再開発事業の中で公益施設計画は望ましい。中心市街地活性化は商業活性化だけでなく、市民がまちなかをしっかり利用できるようにすることであり、それらに対する市の支援策などについては、これから具体的に担当課で協議していくことになる。また、そのような機能を計画する場合、国の支援も受けられるものもあるので、今後具体的な計画に対して詰めていきたい。

参加者 : まちなかに空地が多いので、公共施設などを集約し、人が集まりやすい配置をしてはどうか。また、観光ボランティアをしているが、市内でおすすめできるお店などが無いので、空家活用による地元素材を使った気軽に入れる店舗などをつくってほしい。

田中政策監 : 中心市街地活性化は、歩いて暮らせるまちづくりを行なうもので、まちなかに公共施設などを集約するなど、草津市もこの方向で計画づくりを位置づけている。まちなかの低未利用地活用や施設の再配置などに取り組んでいく予定である。

参加者 : まちづくりは民間が主体となり、行政はそれを支援するという仕組みが重要だ。会議所は頑張っていたきたい。

高田アドバイザー : 仕組みの要となるまちづくり会社については、現在市と会議所で協議している。頂いたご意見をしっかり受け止め取り組んでいただきたい。

参加者 : 25年度から始める具体的なアクションプランと、継続して行なう事業の概要を知りたい。

田中政策監 : 基本計画策定と平行して、コアとなる事業を詰めているところである。まちなかにいくつかの拠点を整備し、それらをネットワーク化することで回遊性を創出していくような事業を協議している。継続事業としては、まちなかを歩きやすくするなどバリアフリー計画等、基盤整備などを行なっていく。

高田アドバイザー : ここからはご意見としてご紹介させていただく。「仕事で市民活動を応援している。子育て世代の若い母親など、何かしたいと思っている人は多いが、家賃が高いなどの問題があるので、活動の場などを整備してほしい」とのご意見が出されている。収益など採算だけではない、何かやりたいと思っている人たちの活動の場をつくることは大切である。

高田アドバイザー : 「2年前に草津市コミュニティ財団主導で渋川風景の記憶絵が完成した。その絵を中活事業に活用できれば」とのご意見が出されている。草津らしいまちづくり、活性化にはこういった原風景は大切と考える。

高田アドバイザー : 「旧東海道と旧中山道の商店街の民間事業者や市民の声や事業を生かす方法を知りたい」とのご意見が出されている。

伊勢村副会頭 : 空き店舗調査を実施し、持ち主のご意向やご希望の家賃など詳細な状況把握を行なっているところである。今後、これらのデータを生かして、まちづくり会社などでテナントミックス事業などに反映させていきたい。

高田アドバイザー : 本陣周辺、渋川など、エリアや商店街など小さな単位で市や会議所、私ども専門家も入って勉強会などを行ない、この機会にどんなことができそうかなどを話し合う場を持つことが重要である。

高田アドバイザー : その他、「基本計画期間について、じっくり考えることは良いことであり、あせらず良いプ

ランづくり」をとのご意見や、「5年ではなく、中期・長期にわけて長い時間をかけて取り組んではどうか」とのご意見も出されている。国の計画認定と、それに伴う支援を受けるためには、一旦法律に基づいた5年計画となる。しかし、ご意見にあるように、まちづくりは5年で終わるのではなくエンドレスなので、国の支援とは別に長期的な市の支援策なども必要だ。

高田アドバイザー :「中心市街地活性化にはメイン事業が必要であり、このメイン事業を中心に3つの目標を進めるべき。メイン事業は琵琶湖や宿場町などを生かし、日本全国、世界に発信できるものでなければ活性化は難しい。」とのご意見が出されている。まちづくりにはインパクトのあるメイン事業と、小さくてもきらりと光る事業との両方の推進が重要だろう。

奥村課長 :資料3の「活性化の事業展開イメージ」に示すように、草津駅周辺、西友跡地、草津川跡地・マンポ周辺、野村運動公園周辺など、活性化拠点となるコア事業を展開し、それら拠点を人が回遊するよう考えている。

高田アドバイザー :「具体的な数値目標及び目標達成の指標は何か。」とのご意見が出ている。

奥村課長 :中活では「歩いて楽しい回遊性の高いまち」「個性的で魅力のある店舗が集積するまち」「幅広い世代が交流するまち」という3つの方針に対し、目標値の設定が必要であり、通行量の増加や魅力店舗の増加、施設の利用者の増加などの指標を検討している。

高田アドバイザー :「道路整備など交通網の充実とあるが、具体案は何か。」「他都市からの来街を促すと駐車場の確保が必要。駐車場整備はどこで計画されるのか。」「大型店の意見はどうか。」といったご意見が出されている。

奥村課長 :道路整備や駐車場整備など、交通施策については今後、中活の「市街地の整備改善」「都市福利施設の整備」「まちなか居住の推進」「商業の活性化」「公共交通の利便性促進」という5つの事業分野のなかでしっかり検討していく。

伊勢村副会頭 :大型店との協議についてはこれから行なっていく予定である。

高田アドバイザー :「活性化協議会への参加はどうすれば良いのか。」というご意見が出されている。活性化協議会には、主には中活エリア内で事業を実際に行なう人たちが参加する。活性化は、ばらばらに事業を展開するのではなく、活性化協議会が軸となり具体的に議論を行ない、調整し、草津市の活性化の方向性に合致するように事業を推進する役割を担う。

高田アドバイザー :「市民アンケートでは、これから先大人になる子どもたちがどんな市街地を望むのか聞いてみてはどうか。」とのご意見が出されているが、確かに次世代を担う人たちの意見は大切であり、何かの形で聞いてみたい。

高田アドバイザー :「ルームシェア、ハウスシェアするなど、学生が空家に住む街は素敵だ。」「市民アンケートでも様々な飲食店を望む声が多いようだが、テナントミックスでは、従来からあるような飲食店ばかりでは集客スポットとなり得ないのか。」といった意見も出されている。

参加者 :カフェなどゆっくりでき、こだわりのセレクトショップなどの複合店ができればと思う。

高田アドバイザー :是非、活性化拠点のなかで実現し、ゆっくりと回遊できるスポットとして位置づけていただきたい。

参加者 :世代間交流は賛成。老人会やケアセンターと民間企業、行政の連携をつくる必要がある。また、音楽教室をしており、子どもたちの街角コンサートなどを企画すると出演応募が非常に多く、もっと活動の場をつくってあげたいと感じる。また、高齢者施設での子どもたちのコンサートでは交流も生まれる。希望が丘など大自然でのコンサートでは太陽

光発電などの利用もしている。エコや多世代交流など、身近な活動から出来ることがあると思う。

高田アドバイザー : まちづくりや活性化では、ハコものだけつくるのではなく、その活用など中味が重要となってくる。

参加者 : 検討されている事業には、みどりや広場の要素が少ないように思う。

高田アドバイザー : 草津川跡地活用がみどりや憩いの広場整備などに大きな役割を持つ。また、プロジェクト会議で協議している西友跡地活用やアニマート跡地活用などでも、心やすらぐ緑を取入れ、どんな拠点整備にも緑や広場の要素を取入れることで、草津らしい特徴あるまちづくりにしたい、との方向性で考えている。

参加者 : 第2回目のプロジェクト会議の欠席者が多いが、しっかり機能しているのか。また、メンバーに市民が入っていないのも疑問だ。NPO などの活動報告のなかでも、市民の声が入っていない。

高田アドバイザー : 他にも「プロジェクト会議の構成員は、企業者、店主ばかりのようだが、一般市民の声はどうやって掴むのか。」とのご意見が出されている。今日のフォーラムも市民の方々の意見を聞かせていただく場となる。しかし、子育て世代の若いお母さん方や高齢者など、様々な世代の声を十分にはまだ拾えていないのも確かだ。今後もっと小さな単位でこのような場を持ちたい。是非どんどん「相談に来て」と声をあげていただきたい。

高田アドバイザー : その他、「商業活動中心ではなく、コミュニティ活動などの分野の意見把握は良いことだ。」とのご意見がある。また、「エリア全体が一つのスーパーのように機能するような店舗配置をしてほしい。営業休止商業者などの理解を十分に促すことが大切。」といったご意見も出されている。まちを一つのモールと捉えることは中心市街地活性化では大切である。計画的かつ戦略的な店舗や施設配置などを行なっていくためには、従来の体制には無理があり、まちづくり会社が必要であり、担う役割は大きい。

## 7. まとめ

高田アドバイザーより、フォーラムのまとめがある。

「みなさんのご意見から、もっと多くの、そして幅広い分野からのご意見を聞き、また中活の取組みを知っていただく場が必要と感じた。小さな単位での、このような場を持つようにしたいので、是非声かけしていただき、実現可能な事業の掘起しにつなげていきたい。」

## 8. 閉会挨拶

草津商工会議所金澤専務による閉会の挨拶。

## 9. 閉会